

隠蔽・事故隠し？！ 何も明らかにしない、C35編成の謎！！

12月15日、C35編成が新大阪駅で運転を打ち切り、その夜、大阪仕業検査車両所に入庫してきました。電力区、大交両、大修両、支社の社員、管理者十数人が約2時間に渡り調査を行っていました。しかし、それを見ていた大仕両社員には何が起きているのか？何も管理者から教えてもらえませんでした。

噂では、12号車のパンタグラフの異音と異常な動作をしていて、調査したところスリ板の下にある「ベロー付バネ」が一つ破損していたらしいのです。

このことを現場管理者に聞いても「知らない、分からない」を今も繰り返すのみです。社員のヒューマン・エラーはすぐに「注意喚起」の掲示が張り出されるのに、今回はそうになっていません。

なぜ、明らかにしないのでしょうか？

何か都合が悪いことでもあるのでしょうか？

構造上の欠陥ではないのでしょうか？

何も明らかにされないまま、突然！始まった訓練って何に？！

12月20日から会社は突然「舟体、スリ板の取替え作業」の訓練を始めました。この作業ではスリ板を交換する時「ベロー付バネ」を触手で点検することになっています。また、この訓練はこの夏に残業で行っています。

なぜ、今、訓練を始めたのでしょうか？

C35編成の事象と何ら関係がないのでしょうか？

この疑問を現場管理者に聞いても「重要作業ポイントだから」としか答えは返ってきません。今、年末・年始総輸送点検で管理者が一晩中張り付き、社員に対し「声だし点検」を行わせています。社員は疲れ果てているのに、この訓練が始まったのです。

私達は、会社に対し標準化と称して「検査順番や喚呼が違ふ」と指摘するより、直接、関わるC35編成のような事象を明らかにし、注意を促すべきだと考えます。

私達、大仕両分会は会社に申し入れを行うと共に、現場管理者にはすべてを明らかにする取り組みを行っていきます。